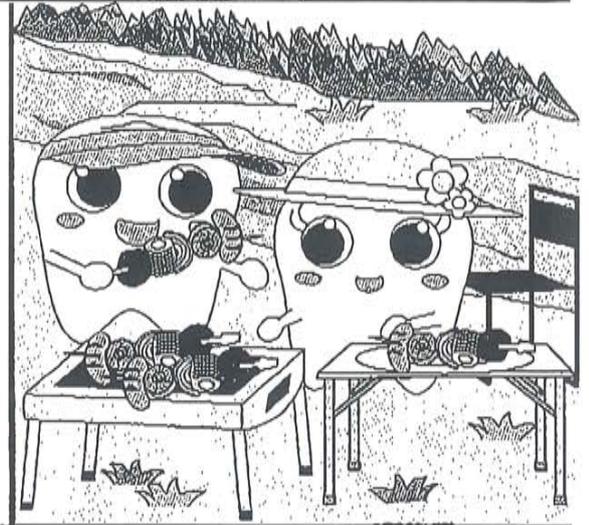
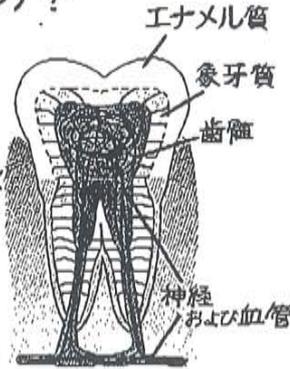


皆さん、こんにちは！いかがお過ごしですか？  
くまさんデンタルクリニック、院長の北澤和也です。  
先日 読売新聞に、「歯が10本以上で認知症予防効果」という  
記事が掲載されていました。その内容は、「75～84歳の高齢  
者を佐賀歯科医師会が調査したところ、認知症の人の中で歯  
が10本以上残っている割合は22.1%だったのに対し、自立  
できている高齢者では49.6%で2倍以上も高い」というも  
のでした。つまり噛む機能が維持できているということは、  
認知症予防につながっている可能性が高いということです。  
今月は、むし歯治療の際によく耳にする「神経を取る」という  
ことについてご紹介したいと思います。実は神経を取るとい  
うことは、歯を残すために行う処置でもあるのです。



### ① 神経ってどういうもの？

歯の中心部には、歯の象牙質へ  
栄養補給するための細かい血  
管や神経が入り込んでいる場  
所があります。この部分を一般  
的に神経と呼んでいて、正式に  
は歯髄(しずい)と言います。  
神経を取るというのは、この歯  
髄を取り除くということです。



### 理由② 2つ目は、抜歯を回避するためです。

歯髄まで進んだむし歯を放っておくと、歯はどん  
どん溶けていくのと同様に、歯の内部ではむし歯  
菌が歯髄を通り道としてさらに奥の根っこの方ま  
で侵入 (C4ステージ) して、根っこの先の骨まで  
も溶かしてしまいます。もしこうなると、治療と  
しては歯を抜くしかありません。そこで、抜歯す  
るよりかは、一歩手前の段階で歯髄を取って、歯  
を残すという選択になるのです。

### ② 何で神経を取ってしまうの？

むし歯の治療で神経を取るのには、主に2つの理  
由があります。

**理由①** 1つ目は、痛みを取り除くためです。  
むし歯が歯髄まで進行 (C3ステージ) すると、  
歯髄も細菌感染して炎症が起き、あのズキズキ  
とした我慢できない痛みを発生します。神経が  
感染・炎症を起こすと、基本的には治らない  
(不可逆性) ので、痛みを取り除くためには、や  
むを得ず歯髄を取るという治療になります。

### ③ デメリットとその対処

歯髄を取るということは、神経と一緒に血管も取  
り除くということです。そのため象牙質への栄養  
補給ができなくなり、歯が欠けたり割れやすくな  
る問題が生じます。これに対しては、歯髄を取  
った部分に象牙質に似通った材質のものを埋めるこ  
とで補強します。また痛みを感じることはできな  
いため、再度むし歯になって病気が進んでも、気  
付かずに奥深くまで進行してしまう心配が残りま  
す。これに対しては、歯科健診を定期的に受けて  
いただくことが大切となります。

◆ 定期的に歯科健診を受け、むし歯を早期に発見し早期に治療することが大切です ◆

口腔ケア新聞の発行にあたって

ここ数年、外来患者さんやそのご家族から訪問診療のお  
問い合わせやご依頼を受けるケースがとて増えしてきました。  
小さなご病気されてしまったことがキッカケで、寝たき  
りになってしまわれたりして、「いつもお元気でいいですね  
」って話をしていたのに。。。そんなことが続いたので、  
これは本格的に訪問診療に取り組まなければいけないがな  
って、強く思うようになりました。

そこで取り組みの一環として、要介護者の歯と口  
に関する情報を地域の介護に携わっている方にお届けし  
ようと考え、口腔ケア新聞を毎月1回発行しています。

## くまさんデンタルクリニック

診療時間 平日9:00～19:30 土・日9:00～13:00

診療科目 一般歯科 小児歯科 予防歯科  
訪問歯科

休診日 火・祝日 院長 北澤 和也

市原市白金町3-4-4

☎0436-26-3666 FAX 0436-26-3667

http://www.kumasan-dent.com